

平成 19 年 5 月 23 日

久留米医師会長 丸田宏幸先生
浮羽医師会長 戸次鎮史先生
大川三潋医師会長 一ノ瀬穂積先生
小郡三井医師会長 丸山 泉先生

4 医師会合同委員会委員長
小郡三井医師会副会長 蒲池 壽

4 医師会合同委員会の経過報告について

昨年の明日の医師会を考える会で諮問ご提案がありました 4 医師会合同委員会を各医師会 2 名の委員構成で平成 18 年 8 月 9 日より計 5 回開催いたしました。久留米市合併後の保健行政の状況について各委員より発言がありました。今後健康保健事業、予防接種などの様な方向性をもって対処していくのか各医師会担当理事出席の上、検討しました。

第 4 回合同委員会で久留米市健診等協議会への協議事項を検討し提出いたしました。協議会はそれに沿って開催されました。

4 医師会と行政との保健事業に係わる協議会検討事項について

- ① 健康診査健診票の訂正、基本健診のアンケート（65 歳以上：みつめてほシート）の修正はできないのか？
- ② 基本健診のアンケートの検証と介護予防事業について
- ③ 健診率を無制限にアップできるのか。平成 20 年の特定健診を考えると 19 年度から詳細な計画検討が必要になるのでは。
- ④ 平成 20 年度より実施予定の特定健診と特定保健指導の方向性についてどの様にお考えでしょうか。

平成 19 年度も 20 年度よりの特定健診と特定保健指導等健診方式の変更がございますので必要な時は随時に合同委員会を開催検討いたします。

以上ご報告いたします。

第1回4医師会合同委員会 議事録

- 日時 平成18年8月9日（水曜日） 午後7時30分
- 場所 久留米医師会 会議室
- 出席 広津、植田、井上、蒲池、松行、安本、萬年、各先生
- 欠席 深川先生

1、蒲池議長より諮問案の説明

2、今回を合同委員会とし、本日を第一回とすることを確認する。

3、現在、行政再編後の状況について各委員より発言

健康保険事業、予防接種など当初はぎくしゃくしたが、かなり改善されてきた。

三潯町）今のところ問題ない、行政と連絡会している。

城島）面倒くさくなってきた、行政の態度がきびしい。

具体的には、わきあいあいとした感じがなくなってきた。

健診時循環器疾患で通院している人は受付ないなど。（以前は受付ていた。）

久留米市）健診では特に問題ない。

問診表が面倒くさい。

予防接種については、久留米市への要望書を提出された。

4、個別健診への統一について

集団健診は親への説明が容易。

個別健診は手間と時間がかかるわりに、料金が安い

三潯町）小児科医は依頼しているので、個別になると問題。

5、行政も合同委員会への参加の希望がある。

担当理事を含む意見交換会を考える。会員も多く参加の方向で検討。

6、健診の統一化

心臓、腎臓健診については、統一化されている。

ほかの健診についても改善は可能。

7、久留米市と支所との連絡が悪い（うきは）

大川は直接市の担当と連絡をとっている。

8、健診表のチェック

本来は医師会、医療機関でチェックすべきだが、現在は市でおこなっている。

個人情報の問題もある。

うきは医師会は医師会でいちどチェックしている。

9、この合同委員会を今後どの方向にもっていくか？

最初は2ヶ月に一回ぐらいで行い、問題が無ければのばしていく。

緊急性があればそのときにひらく。

10、特定高齢者事業、いったい何をすべきなのか、内容が不明。

地域包括支援センター、十分理解されていない。

予防事業に対する予算が無いなど、協議して行政への交渉が必要。

11、次回は10月に開催

第2回4 医師会合同委員会 議事録

日時 平成18年10月23日（月）19時30分

場所 久留米医師会 会議室

出席 広津、上田、井上、深川、安本、萬年、蒲池、松行、各先生

欠席 なし

1、前回議事録の修正

乳健の個別健診への統一のところで

集団乳児健診は「親への説明が容易」は「親への説明時間が短い」に訂正する。

三潞町は集団乳児検診を町外医師に依頼している現状なので個別健診は難しい。

北野町は当初個別では身体計測、栄養指導などへの対応が十分できない可能性があるため集団、個別を併用したが、現在は十分対応できる状態となりつつある。

田主丸町も現在集団個別併用している。将来の対応は未定。

2、現在通院中の方の健診適否

厚生労働省は遠慮するよう通達を出している。しかし、普段あまり検査していない人に対しては受診があれば健診を行ってもよいと思われる。

このことは各医師会の理事が集まり認識すべきである。

3、各種癌健診の通達が一方的である

新久留米市は支所から説明はあるが、直前である。

久留米医師会では専門医会に諮問し、健推協と話し合っているものもあるが多くは事後承諾の形式である。

説明会の前に医師会が接触しておく事が望まれる。

そのために健診担当理事が11月にまず集まり、その後2ヵ月毎くらいに数回話し合っ行政担当者と交渉してはどうだろうか。

健診事業案の決定に医師会が関わっておかないと、将来、産業衛生協会などに安く健診を請け負わせる可能性が否定できない。

4、基本健康診査にチェックリスト生活習慣病が加わる事

報酬が変わらず、現在の業務に追加される可能性がある。

市の予算案に影響与える時期に結論が出せるよう担当理事の会合を開くべきである。

5、その他

1) 65歳以上のインフルエンザ予防接種の一部負担金を久留米市に合わせて1050円にした。(大川三潞)

任意個別接種の料金の統一は難しいが、極端な低額は控えるべきではないか。

2) 厚生労働省の通知、補完法が現場に混乱をもたらしている事態も散見される。

医師法、医療法、補完法について考える場や時間がもてないだろうか。

6、次回第3回委員会予定

11月に各健診担当理事も含め招集する。

第3回4医師会合同委員会 議事録

日時 平成18年11月22日 (水曜日) 午後7時30分
場所 久留米医師会 会議室
出席 広津、井上、深川、安本、萬年、蒲池
北里、溝田、田中、毛利(今回、各医師会の健診担当者も参加された)
欠席 松行、植田

1. 前回の議事録訂正

「その他のところ」で、補完法を保看法へ訂正

2. 基本健診について変化したこと

- ① 大川・三潴においては町によって費用に格差が出たが、特に困ってはいない。
健診期間が延びたため胸写のダブルチェック読影料が問題となっている。
- ② 小郡・三井においては費用の格差が出てきている。
- ③ 北野町の受診者が減少している。個別通知がないためではないかと考えられる。
- ④ 浮羽では、集団検診のみしか行われていない。
- ⑤ 田主丸では、集団と個別健診が行われている。
- ⑥ 個別健診にて、健診番号が個別に送られてくるので、利用しづらい。
- ⑦ 久留米市では、医療機関の努力により受診率が高いところがある。葉書を出して受診を勧める医療機関もある。
- ⑧

3. 次年度の医療健診について

- ① がん検診と基本健診とは分けて討議したほうが良いのでは
- ② 平成20年度から基本健診が変わる。
- ③ 現在、各市町村はどこに癌などの健診を委託しているのか調べていただきたい。
- ④ 小郡では、肺がんと結核健診は同時に行われている。ロールフィルムを使用している。乳がん健診は2年に1回となっている。
- ⑤ 久留米では、乳がん健診は、今年度より40歳からで、2年毎である。触診とマンモグラフィーを行っている。日本での受診率は欧米と比べて少ない。欧米では70～80%である。
- ⑥ 久留米では、胃がん健診は毎年あるが、毎年8%の受診率である。
- ⑦ 各医師会に各種の健診部会を作っていただきたい。
- ⑧ 久留米市の健診の予算は、前年度の準じて12月に作られる。

4. 今後について

四医師会にて今後久留米市の健診担当者呼んで健診の流れ等の話し合いを持つことを予定する。

各市町村はどこに癌などの健診を委託しているのか調べていただきたい。

各医師会に各種の健診部会を作っていただきたい。

第4回 4 医師会合同委員会 議事録

- 日時 平成 19 年 1 月 29 日 午後 7 時 30 分
- 場所 久留米医師会 会議室
- 出席 蒲池 広津 萬年 深川 安本 松行 熊谷（田主丸地区理事） 植田
欠席 井上

1) 前回の議事録訂正：特になし

2) 医師と行政との保健事業に係わる協議会について

- ・ 基本健康診査健診表の訂正、基本健診のアンケート（65 歳以上：みつめてほシート）の修正はできないのか？
全国一律、介護保険に利用しているので変更出来ないのでは。
田主丸では本人に書かせている。
事前に配布して、来院の時に記載したものを持参させることはできないか。
- ・ 基本健診のアンケートの検証について
改良点はないか、この時の結果をどれくらい利用したかの検証が必要。
市に回答を求めるのは無理なのでは。
包括支援センターが利用している。
- ・ 健（検）診率を無制限にアップできるのか（予算の問題は）
大牟田市は胃癌検診を集団検診に一本化した。
小郡市は昨年、全体で健（検）診費用（予防接種も含め）を 20%下げた。
医師会への支払いを 10%下げ、市民の個人負担金を 10%上げた。

3) 特定健診・特定保健指導について

- ・ 平成 20 年度から実施される。
- ・ 集団健診を行っているところが問題となる。
- ・ 医療機関が特定健診から外される危惧がある。
- ・ 保健指導の名目で外部健診機関にすべて委託される可能性がある。

4) 各種検診部会について

- ・ 各種検診部会の詳細を 4 町の医師会員にアナウンスして欲しい。
- ・ 検診結果のフィードバックを 4 町の医師会員に知らせて欲しい。

5) 今後のテーマについて

- ・ 救急車の搬送の問題について
久留米市以外への搬送は福岡市等大都市へは OK だが、八女市への搬送は断られることもある。
合併後は改善傾向にある。
搬送先の医師指定、医師同乗であれば、問題なく搬送してくれる。
- ・ その他のテーマについても、話し合いたい。

第5回4医師会合同委員会 議事録

日時 平成19年3月19日

場所 久留米医師会会議室

出席 蒲池 広津 萬年 深川 安本 井上 松行

欠席 植田 熊谷（田主丸地区理事） 議事記録 松行

1) 前回議事録訂正

小郡市は財政難から健診費用の予算を20%削減した。その穴埋めとして10%分を市民の負担とし、10%分の医師会の支払いを減額した。

2) 来年度から始まる特定健診、特定保険指導について

個別の医療機関で実際に特定保健指導ができるのかという問題あがる。
集団検診では健診企業の参入が予測される。

詳細は今後変更があるが秋口に具体化していくと思われる。

6月頃その骨子を聞いて要望を出す必要がある

その際は各医師会の健診担当理事と市担当職員及び課長級の出席を要請する。

3) 各地区70歳未満の基本健康診査の実態

久留米 個別

大川三潁 個別

小郡市三井郡 集団（産業衛生協会）

浮羽市 集団

4) その他の意見

現在福岡への人口、施設の一極集中が加速している。

久留米市は地域を重視し、そのサテライト機能を充実させ、地域完結型医療を目指さなければならない。

5) 各4医師会長への報告

蒲池委員長がこれまでの議論をまとめて4医師会長に報告する